

平成２８年度香川県麦づくり推進研修大会 資料

平成２８年８月５日（金）

香 川 県 農 業 再 生 協 議 会

平成２８年度香川県麦づくり推進研修大会 次第

１．開 会

２．あいさつ

３．平成２７年播き香川県麦作拡大コンクール表彰式

４．研修内容

（１）「平成２８年播き麦の生産拡大方策について」
（香川県 農政水産部 農業生産流通課 課長補佐 十河 土志夫）

（２）「平成２８年播き麦の需給動向及び生産拡大に向けた取組方針について」
（香川県農業協同組合 営農部 農産販売課 課長 平田 雅規）

（３）「農地中間管理事業を活用した麦の作付拡大について」
（（公財）香川県農地機構 専務理事 大山 興央）

（４）「収量向上に向けた麦の生産技術について」
（香川県 農政水産部 農業経営課 主席専門指導員 大熊 将夫）

５．基調講演

省力化・高収量・高品質を実現した大規模麦作経営
（小野田 裕二氏（平成25年度全国麦作共励会農林水産大臣賞 農家の部 受賞））

６．質疑応答

７．大会宣言・ガンバロー三唱

８．閉 会

平成 28 年播き麦の生産拡大方策について

香川県農業生産流通課

1. 27年播き(28年産)麦の生産の状況について

播種については、10 月が少雨であったため、土壌条件が良好な 11 月上旬から播種が開始された。その後、11 月中旬から 12 月下旬まで多雨で経過したため播種作業が遅れるとともに、練り播きや出芽不良のほ場が見られた。作付面積は小麦は微増、はだか麦は1割程度減少となった。

11 月以降、高温で推移したため、平年に比べ幼穂形成期、節間伸長始期、出穂期、成熟期など各生育ステージが大幅に早まった。平年より早く収穫が始まり、はだか麦は5月末までに収穫を終えた。小麦は 5 月末までに 6 割程度を終了し、四国地方が梅雨入りした6月4日以降は雨の合間を縫っての収穫作業となった。

高温による生育の促進と湿害に伴う肥料切れや下葉枯れの影響による穂数の減少や充実不足などにより、収穫量ははだか麦を中心に前年を大きく下回る見込みである。

表 1 27 年播き麦の作付状況（単位：h a）

区分	27年播	26年播	増減
	共済引受面積	共済引受面積	
小麦	1,654	1,605	49
はだか麦	820	903	▲83
2麦種計	2,474	2,508	▲34

表2 麦の播種時期と単収について(25年～27年播の比較)

区 分	27年播(28年産)		26年播(27年産)		25年播(26年産)	
	11月末 進捗率	95% 完了期	11月末 進捗率	95% 完了期	11月末 進捗率	95% 完了期
小麦	55 %	1 月上	82 %	1 月上	43 %	1 月上
単収	273kg/10a (JA 荷受推定)		297kg/10a		317 kg/10a	
はだか麦	82 %	12 月下	87 %	1 月上	52 %	1 月上
単収	243kg/10a (JA 荷受推定)		268kg/10a		269 kg/10a	

「平成28年度香川県麦づくり推進研修大会」開催要領

1 開催目的

本県産麦については実需者から高く評価されており、その需要に即した麦の生産拡大を図れるよう関係者が一丸となって推進を行っている。特に小麦については、需要量に対する生産量が不足していることから、ますますの作付拡大と安定生産体制を強化していかなければならない。

そこで、県内の麦生産者等を対象に、麦作技術や生産拡大に向けた県事業等の支援措置等についての情報提供、優良な麦作経営農家による講演を行い、生産拡大とともに単収増や品質向上を図ることを目的とした研修会を開催する。

2 日 時

平成28年8月5日（金）13：30～16：30（受付開始12：30）

3 場 所

丸亀市綾歌総合文化会館「アイレックス」 大ホール
（住所：丸亀市綾歌町栗熊西1680番地 TEL：0877-86-6800）

4 主 催 等

主催 香川県農業再生協議会
共催 香川県、香川県農業協同組合中央会、香川県農業協同組合、かがわ農産物流通消費推進協議会

5 参集範囲

県内麦生産者・団体、県内実需者団体、地域農業再生協議会、市町、香川県農業共済組合、中国四国農政局香川支局、(一社)香川県農業会議、農業委員会、香川県農業協同組合、香川県農業協同組合中央会、(公財)香川県農地機構、香川県

6 研修会内容

- 1) 開会
- 2) あいさつ
- 3) 平成27年播き香川県麦作拡大コンクール表彰式
- 4) 平成28年播き麦の生産拡大方策について（香川県農業生産流通課）
- 5) 平成28年播き麦の需給動向及び取組方針について（香川県農業協同組合）
- 6) 農地中間管理事業を活用した麦の作付拡大について（(公財) 香川県農地機構）
- 7) 収量向上に向けた麦の生産技術について（香川県農業経営課）
- 8) 基調講演
省力化・高収量・高品質を実現した大規模麦作経営
（愛知県麦生産者 小野田裕二氏）
- 9) 質疑応答
- 10) 大会宣言 ガンバロー三唱

目 次

「平成 2 8 年播き麦の生産拡大方策について」 1

「平成 2 8 年播き麦の需給動向及び生産拡大に向けた取組方針について」 . . . 7

「農地中間管理事業を活用した麦の作付拡大について」 13

「収量向上に向けた麦の生産技術について」 15

基調講演
「省力化・高収量・高品質を実現した大規模麦作経営」 29

大会宣言 52

平成 2 7 年播き香川県麦作拡大コンクール受賞者一覧 53

平成 2 8 年播き麦の生産拡大方策について

香川県 農政水産部 農業生産流通課
課長補佐 十河 土志夫

①認定農業者

大規模生産者については、適期内の計画的な播種や基本技術の励行による収量性の向上を支援する。農地機構を活用した農地集積等による麦の作付拡大を推進するとともに規模拡大に伴って必要となる労働力を確保し、計画的な作業が行える生産体制づくりの働きかけを行う。

また、園芸中心の認定農業者に、経営に麦作を取り入れることを提案する。

②集落営農組織

地域の冬期の不作付農地の有効活用、組織化による労働力の確保、機械の共同利用、米麦二毛作による機械の有効利用などにより地域の農地を守り農業経営の改善を図るために麦の作付を推進する。

5. 麦づくりを支える各種施策の概要

1)「さぬきの夢」の作付拡大に対する支援(県、JA 香川県)

前年より作付面積を維持・拡大しようとする担い手に対して、8ha を超える作付面積に応じて助成する。（「さぬきの夢」生産拡大加速化事業）

【補助率】10ha 以上 4,500 円/10a 以内（県 1/2、JA1/2）
8ha～10ha 3,000 円/10a 以内（県 1/2、JA1/2）

2)麦の生産拡大や生産性向上に必要な機械整備に対する支援(県)

認定農業者や営農組織等を対象に、トラクター、コンバインなどの整備に対する支援を行う。(補助率 30%以内、上限 300 万円)

(かがわの水田有効活用条件整備事業)

3)集落営農の組織化と農業機械等の整備に対する支援(県)

集落での話し合い活動を通じ組織化に向けた合意形成や農業機械等の導入による低コスト化などの「集落営農」への取組を支援する。

(地域を支える集落営農推進強化事業、別紙パンフレット参照)

4)農地機構を通じての農地の貸借に対する支援

(県、(公財)香川県農地機構)

(農地集積支援事業、優良事例集・パンフレット参照)

2. 県産麦の需要動向について

実需者からの平成 29年産購入希望数量は、小麦 6,606t、はだか麦 3,087tである。(表3)

【小麦:さぬきの夢 2009】

「さぬきの夢2009」については実需者からの評価も高く、国産小麦として最高値で取引されている。販売(生産)予定数量に対し、購入希望数量が大きく上回っている状況が続いており、実需者からは、需要に応じた生産拡大が強く求められている。

【はだか麦:イチバンボシ】

実需者から、本県産イチバンボシの品質の良さは評価されているものの、安価で安定供給が見込める二条大麦への需要転換が進んでいたが、はだか麦の価格が低下したことや健康志向によりはだか麦の持つ機能性が注目され始めたことから需要は回復傾向にある。

実需者からは高品質・安定生産が求められている。

表3 実需者からの購入希望数量

	平成 29 年産	平成 28 年産	
	購入希望(t)	購入希望(t)	販売予定量(t)
小麦	6,606	7,310	4,420
はだか麦	3,087	2,365	1,845

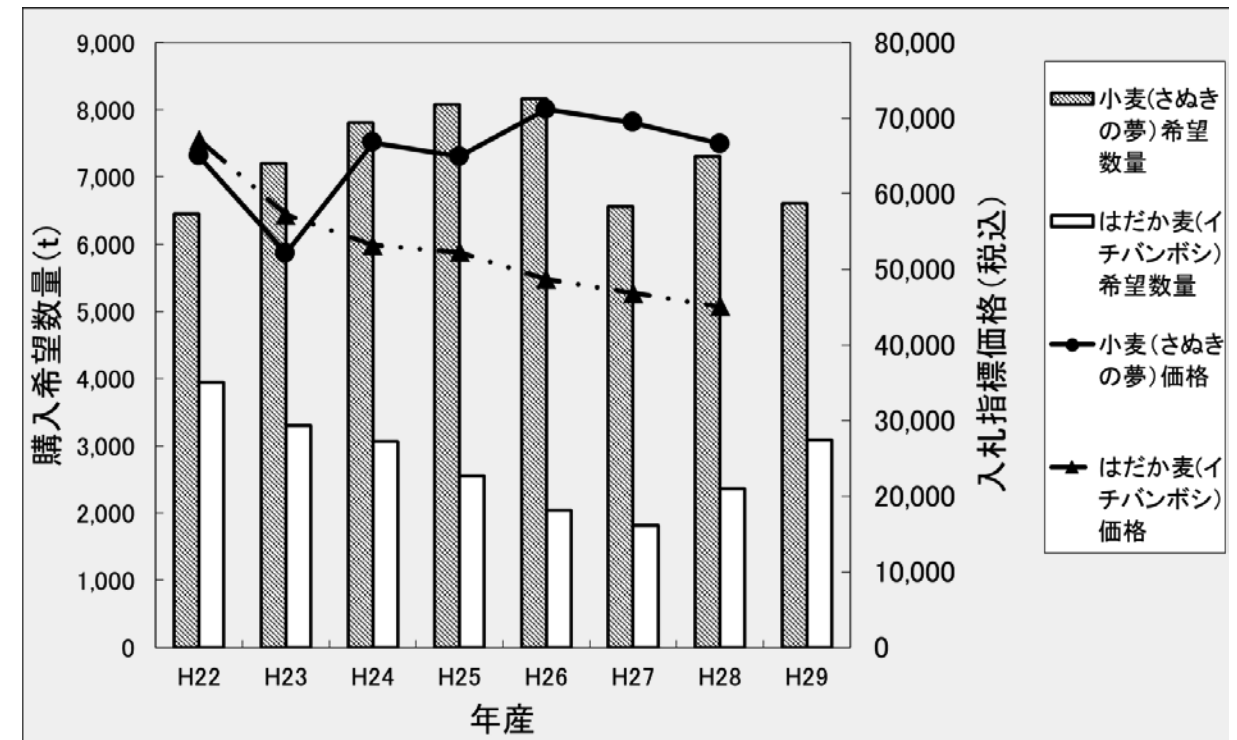


図1 香川県産民間流通麦の購入希望数量と入札価格の暦年推移

3. 28年播き(29年産)麦の生産拡大目標の設定

作付面積1割拡大、単収 2 割アップで小麦「さぬきの夢2009」の生産拡大を図りましょう！

○作付面積 1,654ha(平成 27 年播)➡1,800ha(平成 28 年播)

○単収 293kg/10a(平年単収) ➡360kg/10a

【小麦:さぬきの夢 2009】

実需者からの購入希望数量に対応するため、さらなる面積拡大とともに単収向上に向けた取組みを強化する。

【はだか麦:イチバンボン】

回復傾向にある需給状況を考慮して 850ha とする。

表4 28年播き(29年産)麦の生産量の目標 (単位：t、ha)

区 分	28 年産見込	29 年産目標		拡大 目標 B－A
	共済引受 面積A	生産量	目標面積 B	
小 麦	1, 654	6,480	1,800	146
はだか麦	820	2,600	850	30
2 麦種計	2, 474	－	2,650	－

表5 28年播き(29年産)小麦の地域別生産目標(案) (単位：t、ha)

地 域	生産量の目標と単収向上効果		作付面積 (ha)		
	最低確保水準 A = ② × 293kg/10a	増産目標水準 B = ② × 360kg/10a	28 年産①	29 年産 目標②	拡大 ③ = ② - ①
大 川	756	929	237	258	21
中 央	1, 873	2,302	588	640	52
綾 坂	757	930	237	258	21
仲多度	1, 289	1,584	404	440	36
三豊・豊南	599	735	188	204	16
県 計	5, 274	6,480	1, 654	1,800	146

但し、①は農業共済引受面積(種子面積込)

4. 28年播き麦の生産拡大に向けた重点的な取組み

1) 単収向上の取組み

近年、播種期や生育期間中の降雨の影響により、収量が不安定となっている。27年播きでは、11月中旬から12月にかけての降雨により計画的な播種が行えず、大規模生産者や条件の悪いほ場では遅播きとなった事例があることから、28年播きでは、水稻収穫直後からの播種前の排水対策の徹底によるほ場の乾田化を図り、計画的な播種準備を進める働きかけを行う。

播種前排水対策と適期播種の推進のほか、生育期間中の排水対策等基本技術の励行により、単収・品質の向上を図る。

2) 担い手の経営形態に応じた生産拡大について

麦作経営は経営所得安定対策等の対象となる認定農業者や集落営農組織など担い手への移行、大規模化が進んでいるところであるが、作付拡大意欲が高く労働力が確保されている担い手を中心に農地集積などによる作付拡大を働きかける。

また、麦作を経営に取り入れることのメリットを周知し、麦の新規作付者の掘り起し及び米麦二毛作体系を推進する。

表6 経営所得安定対策による麦の収益性(10a) 28 年産試算例 (単位：円)

区分		小 麦		はだか麦
		単収 293kg	単収 360kg	単収 283kg
販売金額(品代)		19,514	23,976	12,762
経営 所得 安定 対策	畑作物の直接支払(数量払)	28,860	35,460	36,082
	水田活用の直接支払	35,000	35,000	35,000
	(水田裏の場合)	15,000	15,000	15,000
	産地交付金:麦担い手加算	4,300	4,300	4,300
	産地交付金:さぬきの夢加算	2,500	2,500	－
収入	(麦単作の場合)①	90,174	101,236	88,144
合計	(水田裏作の場合)①’	70,174	81,236	68,144
水稻所得(品代、米の直接支払)②		79,855	79,855	79,855
水稻+麦収入合計①’+②		150,029	161,091	147,999

1)小麦単収 293kg、はだか麦単収305kgは21～27年産(7中5)平均。農林水産省「作物統計」
2)販売金額は平成28年産落札指標価格(税込)から算出。
3)数量払の単価;小麦1等 B ランク、はだか麦1等 A ランクの場合。
4)産地交付金:平成28年度見込で算出。麦担い手集積加算は、認定農業者、集落営農、認定新規就農者で法人格を有する場合で算定(追加配分は含まない)。
5)水稻所得は平成 27 年産ヒノヒカリ2等 499kg/10a で試算

（表 7）平成 2 9 年産（2 8 年播き）麦の生産量の目標（単位：t、ha）

区 分	購入希望 数量①	出荷契約面積		目標面積			
		面積	生産量	目標面積	単収	生産量②	購入乖離 ①－②
小 麦	6,606	1,650	5,280	1,800	360kg/10a	6,480	▲126
はだ か麦	3,087	800	2,440	850	305kg/10a	2,590	▲497

※29 年産目標における小麦の単収は 360k/10a、はだか麦の単収は 305kg/10a で算出。
また、目標面積は採種ほ場面積を含む。

（表 8）平成 2 9 年産（2 8 年播き）麦の地域別生産目標（単位：t、ha）

地 区	平成28年産面積			平成29年産目標面積			作付拡大面積 ②—①
	小麦	はだか麦	計①	小麦	はだか麦	計②	
大 川	237	68	305	258	80	338	33
中 央	583	82	665	640	90	730	65
綾 坂	222	85	307	258	90	348	41
仲多度	389	425	814	440	480	920	106
三豊・豊南	188	99	287	204	110	314	27
県 計	1,619	759	2,378	1,800	850	2,650	272

*平成 2 8 年産面積は、農業共済引受面積。
*平成 2 9 年産目標面積には、採種面積を含む。

6. 平成 2 9 年産（2 8 年播き）の生産拡大に向けた各種支援

（1）小麦の生産拡大のためのソフト支援事業

事業名	窓口	内 容	助成金額等
「さぬきの夢」 生産拡大加速化 事業 (県、JA)	JA	前年より作付面積を維持・拡大しようとする 担い手に対して、8ha を超える面積に応じ て助成する。 A区分:10ha 以上、B区分:8ha～10ha	補助率:A区分 4,500 円/10a 以内 B区分 3,000 円/10a以内
経営所得安定対 策における 産地交付金 (国) ※28 年産の金額	地域農 業再生 協議会	・担い手(認定農業者、集落営農組織、認 定新規就農者)が作付けした麦の面積に 対して交付。 ・さらに法人格を有する場合に加算して交 付。 ・「さぬきの夢 2009」を作付した場合に加算 して交付。	交付額:2,800 円 (上限 3,500 円/10a) 交付加算額: +1,500 円/10a (上限 2,000 円/10a) 交付加算額: +2,500 円/10a

平成 2 8 年播き麦の需給動向及び
生産拡大に向けた取組方針について

香川県農業協同組合 営農部 農産販売課

課長 平田 雅規

平成２８年播き麦の需給動向及び生産拡大に向けた取組方針について

香川県農業協同組合
営農部農産販売課

1. 平成２７年産（２６年播き）の販売状況

- （１）小麦「さぬきの夢２００９」
入札価格は下落しているが、販売進捗は不作等に備え低調
- （２）はだか麦「イチバンボシ」
国内産二条大麦へのシフトにより販売進捗は低調、やや需要回復傾向

（表１）平成２７年産民間流通麦の販売状況（６月末日現在）（単位：t、％）

区 分	契約数量 ①	販売実績 ②	販売進捗 ③=②/①	前年販売 実績 ④	前年同期 進捗 ⑤	販売実績対比 ⑥=②－④	販売進捗対比 ⑦=③－⑤
小 麦	4,652.0	2,507.6	53.9%	2,663.7	60.6%	▲156.1	▲6.7
はだか麦	2,262.1	581.3	25.7%	691.4	29.2%	▲110.1	▲3.5
2麦種 計	6,914.1	3,088.9	44.7%	3,355.1	49.6%	▲266.2	▲4.9

（注１）ラウンドの関係で合計が一致しない場合がある。

（表２）平成２７年産小麦の事後調整後の価格推移（実績）（単位：円/トン(税抜)）

播種前価格/販売期間	27/4～27/9	27/10～28/3	28/4～28/8
64,281	65,888(102.5%)	62,160(96.7%)	57,724(89.8%)

2. 平成２８年産（２７年播き）の作付状況について

（表３）平成２８年産の作付状況（単位：h a）

区 分	27年播(28年産) 共済引受面積 ①	26年播(27年産) 共済引受面積 ②	増減 ①－②
小 麦	1,619	1,576	43
はだか麦	759	849	▲90
2麦種 計	2,378	2,425	▲47

※共済引受面積は、採種ほ場を除く。

3. 平成２８年産（２７年播き）の需給と作柄状況

- （１）さぬきの夢２００９
大幅な需給ミスマッチ ▲2,890 t（希望購入数量 > 集荷数量）
- （２）イチバンボシ
需給のミスマッチ ▲520 t（希望購入数量 > 集荷数量）

（表４）平成２８年産麦の契約と購入希望数量と検査結果（単位：ha、t）

区分	出荷契約時		購入希望 数量①	検査数量			希望比 ③/①	1等 比率
	面積	契約数量		面積②	集荷数量③	単収③/②		
小麦	1,700	5,253	7,310	1,619	4,420	273kg/10a	60.5%	60.0%
はだか麦	850	2,593	2,365	759	1,845	243kg/10a	78.9%	75.0%
2麦種 計	2,550	7,846	9,675	2,378	6,265	—	64.8%	65.0%

※検査数量欄の面積②は、採種ほ場面積を除く。
※集荷数量③、1等比率は推定値である。

（表５）平成２８年産小麦の事後調整後の価格推移（予測）（単位：円/t(税抜)）

播種前価格/販売期間	28/4～28/9	28/10～29/3	29/4～29/8
61,668	54,021(87.6%)	未定	未定

4. 平成２９年産（２８年播き）麦の需給状況

- （１）さぬきの夢２００９
需給ミスマッチ ▲1,326 t（希望購入数量 > 販売予定数量）
- （２）イチバンボシ
需給ミスマッチ ▲647 t（希望購入数量 > 販売予定数量）

（表６）平成２９年産麦の出荷契約から見た販売予定数量と購入希望数量（単位：ha、t）

麦 種	販売予定		購入希望数量 ②	ミスマッチ数量 ③=①－②	希望比率 ④=①/②
	出荷契約 面積	数量①			
さぬきの夢2009	1,650	5,280	6,606	▲1,326	79.9%
イチバンボシ	800	2,440	3,087	▲647	79.0%
2麦種 計	2,450	7,720	9,693	▲1,973	79.6%

※出荷契約面積は、生産者から提出された播種前契約面積である。

5. 平成２９年産（２８年播き）麦の目標面積

- （１）小麦「さぬきの夢２００９」
単年度での需給ミスマッチの解消は困難であるが、面積拡大と単収向上の両面からミスマッチの縮小を図る。
- （２）はだか麦「イチバンボシ」
販売進捗と生産振興面から現状程度とし、単収向上を図る。

[illegible]

事業名	事業主体	内 容	助成金額等
かがわの水田有効活用条件整備事業(県単)	認定農業者 農事組合法人 集落営農組織等	麦の生産拡大や生産性(収量・品質)の向上に必要な営農用機械などの整備	補助率:30%以内、 上限 300 万円

7. 香川県産麦の流通事情

言わずと知れた日本めん用小麦で、流通の大半が製粉会社へ流通しており、主な用途はうどんで、一部は醤油、味噌の原料となる。

販売先	県内外	シェア	主な用途
製粉会社	県内	57%	うどん
	県外	40%	
醤油	県内	2%	醤油
味噌ほか	県内外	1%	味噌
合計		100%	

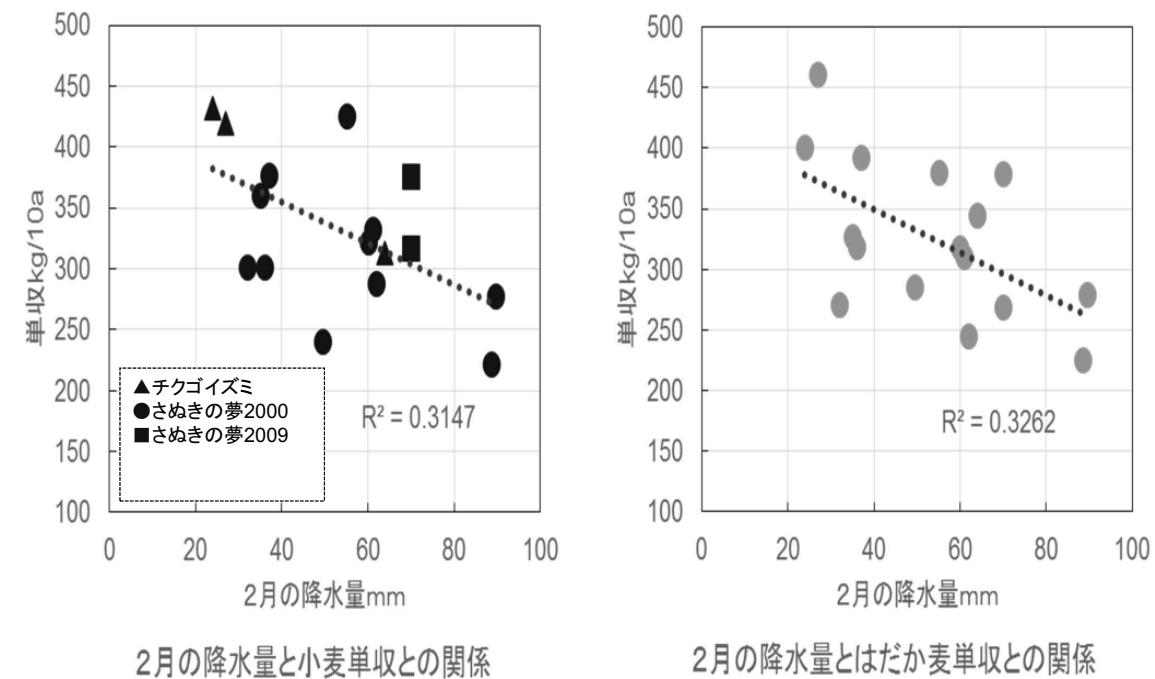
従来は、麦ごはん、麦茶、味噌、焼酎などの原料であったが、昨今の健康志向からはだか麦の機能性が注目されている。

販売先	県内外	シェア	主な用途
精麦会社	県内	54%	様々な原料
	県外	23%	
麦茶組合	県外	21%	麦茶
味噌ほか	県内	2%	味噌
合計		100%	

以上

[illegible]

麦類の収量に及ぼす気象条件の影響



収量向上に向けた麦の生産技術について

麦類の収量に及ぼす気象条件の影響

2月の雨が少ないと多収
 2～3月の日照時間が多いと多収
 ↓
 2月に土が乾いて根の生長が良く、
 2～3月が晴れて光合成量が多いと多収
 ↓
生育中期の排水対策が重要！

香川県 農政水産部 農業経営課

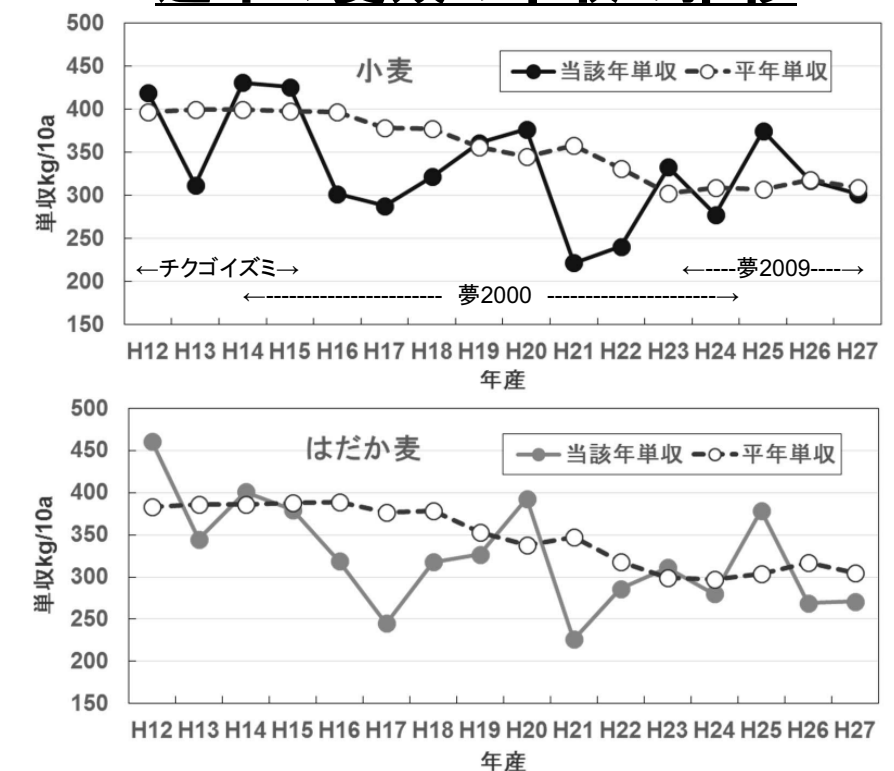
主席専門指導員 大熊 将夫



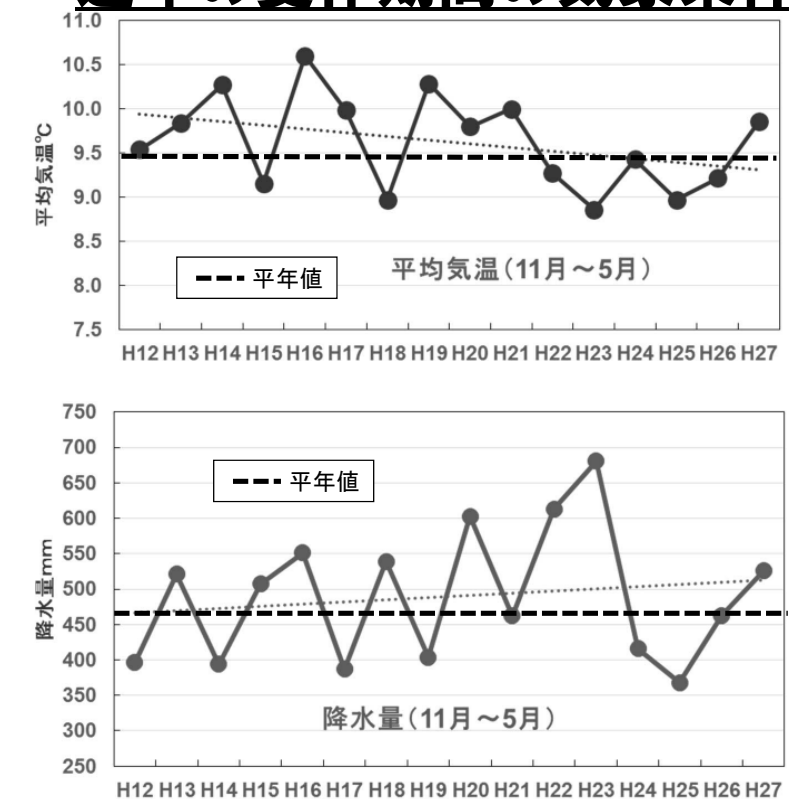
麦づくり2割増収のポイント

- ①排水対策
 - ・麦は畑作物
 - ・播種前～播種直後、生育中の各時期に排水対策
- ②適期播種
 - ・収量・品質が最高になる播種時期が播種適期
 - ・11月15～25日を播種ピークに
- ③土づくりと施肥
 - ・麦は肥料で作る
 - ・土づくり肥料(苦土石灰等)と生育に応じた追肥の施用
- ④雑草防除の徹底
 - ・草種に応じた除草剤の選定と適切な体系処理

近年の麦類の単収の推移



近年の麦作期間の気象条件



排水対策の事例⑥



畦立て栽培法では排水溝に水がたまり、湿害を受けにくい

排水対策

①播種前対策

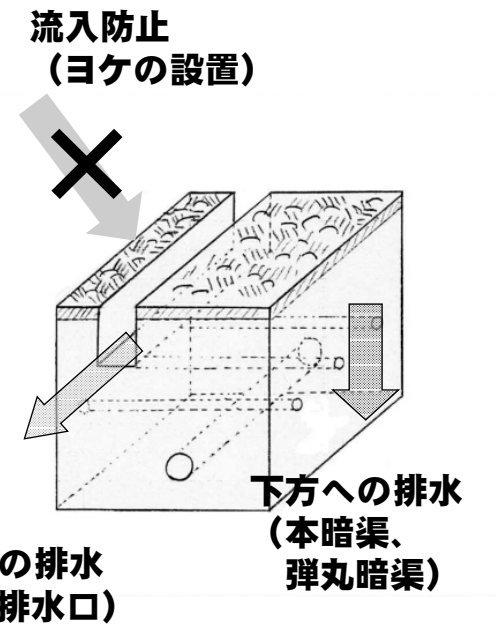
- ・本暗渠
- ・弾丸暗渠
- ・明渠やヨケの設置

②播種時、播種直後対策

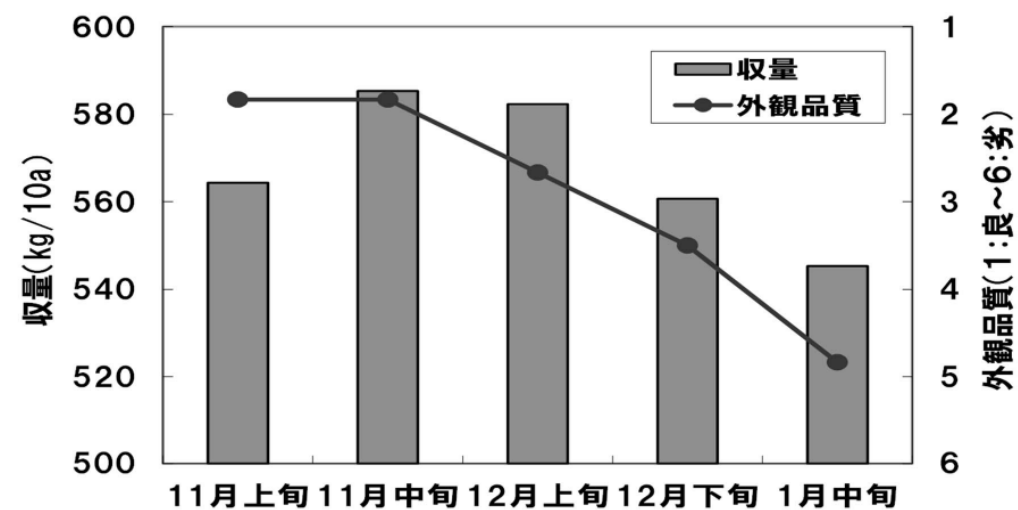
- ・ほ場周囲にヨケを設置
- ・畦立て栽培法（1行程毎に溝）
- ・排水溝を落水口まで連結

③生育中の対策

- ・土入れ
- ・排水溝の整備



適期播種で収量・品質が最高



「さぬきの夢2009」の播種期と収量及び外観品質
(平成22~24年播の3ヵ年平均、農業試験場)

小麦は12月中旬以降、はだか麦は12月末以降播種で収量低下

排水対策の事例①



播種前の排水対策:あらかじめ明渠を設置

排水対策の事例②



播種前の排水対策:水田からの水の流入をヨケで防止

排水対策の事例④



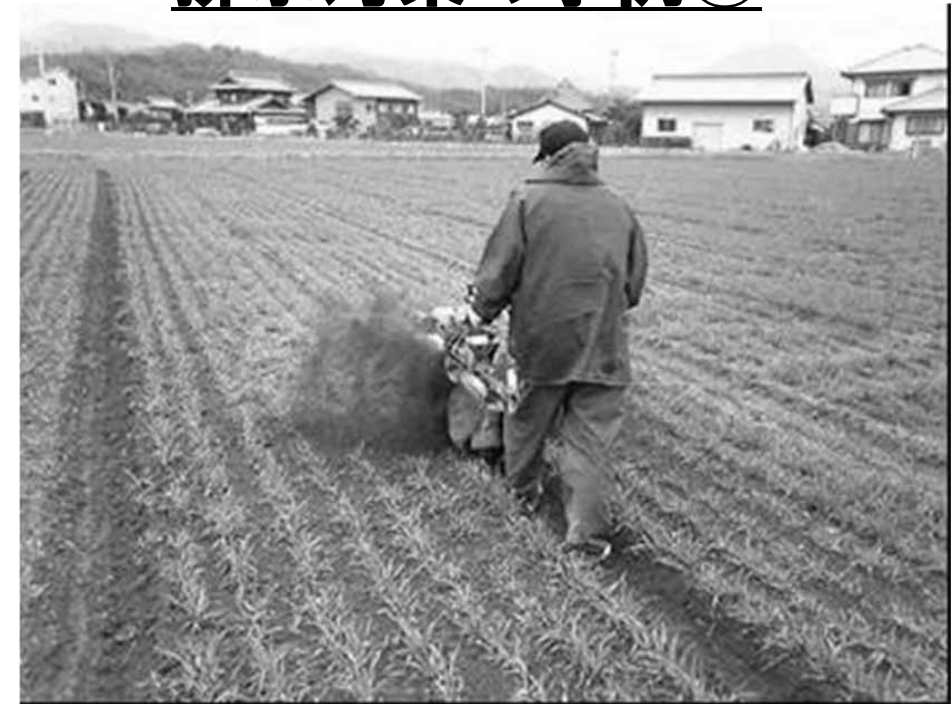
播種後の排水対策:畦の溝と排水口を確実に連結する

排水対策の事例③



播種時の排水対策:1行程毎に溝をつける平高畦

排水対策の事例⑤



生育中の排水対策:生育期の土入れ

①排水性向上 ②雑草防除 ③追肥効果の向上(追肥後)

微量元素欠乏 による生理障害



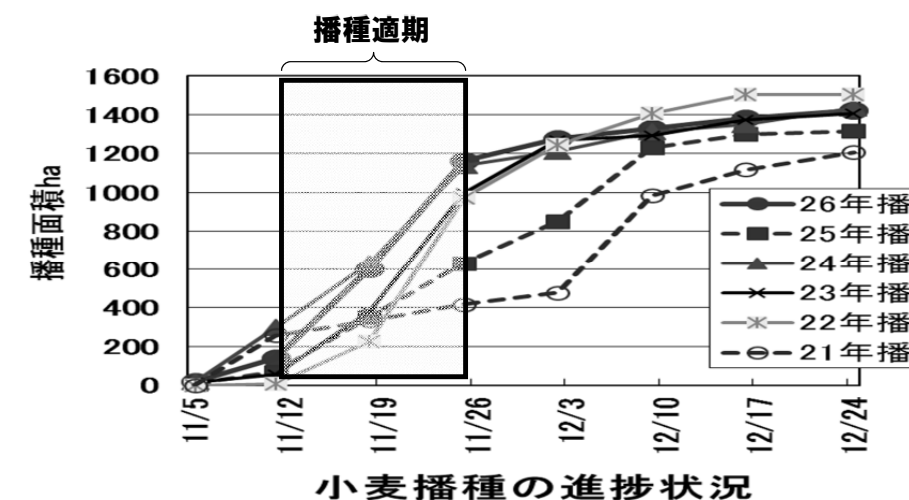
↑株全体の生育が
不良で、特に新葉
部分が黄化
←ほ場全体に生育
ムラがみられ、モザ
イク状に黄化

適期播種

近年は播種適期の降雨により、播種が遅くなる傾向



播種早限になり、土壌水分が適正になったら、すぐに播種



小麦、はだか麦ともに播種早限→11月10日、播種適期→11月15～25日

雑草防除

除草剤抵抗性スズメノテツポウ

- ・トレファノサイド、ハーモニーが効かない
- ・初期除草剤はボクサーが有効ノミノフスマが残草
→中期除草剤との体系処理
- ・ハーモニーに替わるものがない



トレファノサイド抵抗性スズメノテツポウ



ノミノフスマ



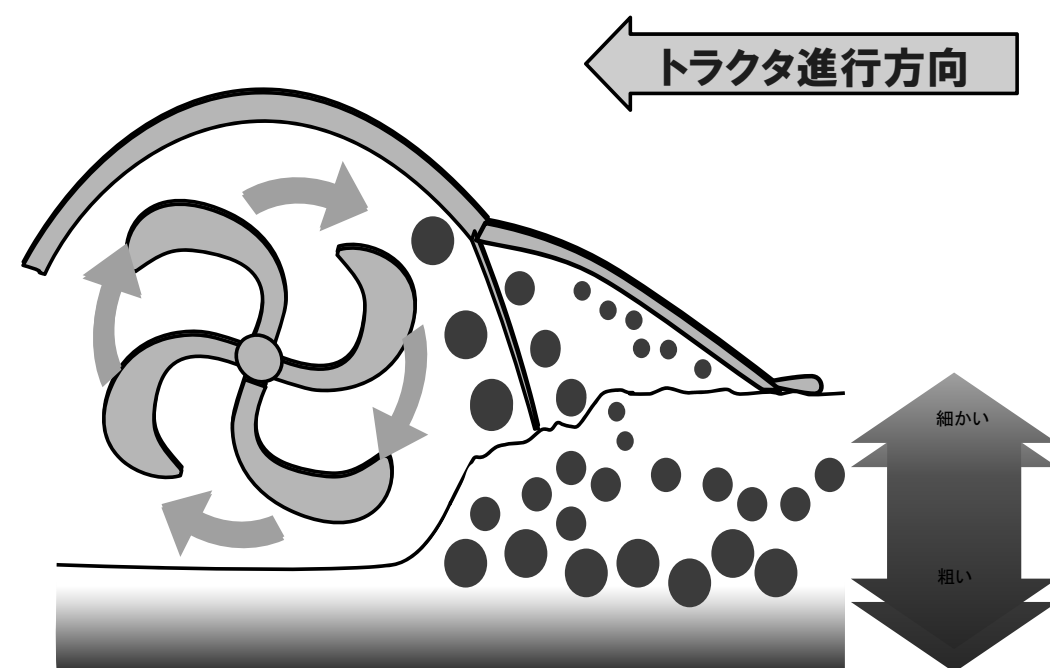
逆転耕畦立てドリル播栽培

→土壌水分がやや高くても播種できる技術



1回耕でも碎土や稲株の鋤込み精度が良いので、すぐ播種できる

逆転ロータリ



pH低下による酸性障害

pH5以下で生育障害が顕著
特にはだか麦で発生しやすい
→アルカリ資材(苦土石灰等)
で酸度矯正(pH6~6.5)



土壌挿入型酸度計(pH計)
はpH4.5を示している

土づくり

<原因>

- ①pH低下による酸性障害
- ②微量元素欠乏(過剰)による生理障害



<対策>

- ①苦土石灰の施用
- ②ケイカル等の土づくり肥料の施用

施肥法の改善

1月の黄化による麦の生育不良

- ①12月の高温・多雨
- ②地力の低下

<対策>

・施肥体系の改善(Nkg/10a)

基肥8+穂肥4 (2/下)

→基肥4+1月追肥4+穂肥4

→基肥0+1月追肥8+穂肥4

講師紹介

氏 名 小野田 裕二氏（愛知県西尾市）

講師の概要

小野田氏は平成 10 年に 29 才でUターン就農し、平成 19 年に経営を継承した。徐々に経営規模を拡大し、平成 25 年には、麦（麦・大豆作）52ha、水稻 55ha の延べ 159ha と経営継承時の 122ha から 6 年で 1.3 倍に拡大した。

収量性と製麺適性に優れた愛知県育成の小麦新品種「きぬあかり」を導入し、適期作業の実施や排水対策の徹底を図り、平成 25 年産小麦の単収は 605kg/10a（愛知県平均 409kg/10a）を実現した。省力面では独自の工夫を図り直接労働時間で 1.7 時間/10a（愛知県平均 4.2 時間/10a）と大幅な短縮を図っている。

効率的で高収益な大規模水田作経営のモデルとして、地域の模範となる経営であり、地域の農業をリードする若き担い手として今後の活躍が期待される。

受賞歴

平成 25 年度全国麦作共励会 農林水産大臣賞 農家の部 受賞

平成 26 年度農林水産祭天皇杯 農産部門 受賞

オオスズメノカタビラ、ネズミムギ

播種前の非選択性茎葉処理剤 ＋播種後の土壌処理剤の体系処理



オオスズメノカタビラ



ネズミムギ(イタリアンライグラス)

目指そう2割増収！

ご清聴ありがとうございました。

○メモ欄

「基調講演」

省力化・高収量・高品質を実現した大規模麦作経営

愛知県麦生産者

小野田 裕二

(平成25年度全国麦作共励会 農林水産大臣賞 農家の部 受賞)

2. 我が家の経営内容

水稻	55ha	湛水直播	50%
小麦	52ha	きぬあかり	75%
		イワイノダイチ	25%
大豆	52ha	フクユタカ	100%

合計 159ha

- ※大型機械の作業は、経営主と常時雇用2名で実施
- ※小麦・大豆はブロッカー・テーソーで栽培
- ※JA西三河農作業受託部会の部会員と良好な協力関係を保っている（ラジコンヘリの共同購入）
- ※省力化のため、近隣の部会員から水稻育苗を購入
- ※新規就農者支援として露地野菜部門を開始（H24から）

従業員3名育成

就農8年目、5年目、1年目
（就農前は3人とも非農家）
作業を単純化して誰でもできるよう工夫
1ほ場に複数のトラクターが入る組み作業を実施

いつも従業員と一緒に作業



内容

1. 愛知県西尾市における水田作の紹介
2. 我が家の経営内容
3. 小麦の省力化と高収量・高品質の両立
4. 地域活動
5. 今後の挑戦について



1. 西尾市における水田作の紹介

西尾市は矢作川河口に広がった沖積地の平野にある
愛知県内有数の農業地帯

○水田作の概要

水稻 1,895ha

小麦 1,201ha

大豆 1,172ha

水田転作実施率 41%

水田の利用権設定率 64%

○特徴○

水田基盤整備と担い手への利用
集積が高度に進んだ地域

難点 台風や集中豪雨では場が冠水する



JA西三河農作業受託部会

部会員 49名

部会長を始め役員8名

役員は地区ごとに選出、意見要望を拾う

役員会で問題点を検討
全体会議で方針を周知



西尾市は兼業化が進んだ地域

自動車関連工業の発達

兼業農家の増加



農地の担い手
問題が発生

昭和40年代から農作業受委託を展開

農業機械銀行導入実験事業の導入

担い手と兼業農家に分かれた



大規模農家の誕生

部会共励会の実施

稲作・麦作・大豆の共励会を実施
(大豆は旧西尾市のみ)

出荷実績とJA自主検査結果で評価

麦作に関しては肥培管理と単収が
公表される





いつも従業員と一緒に作業

従業員のために作業を単純化

一緒に作業をし、従業員のつまづきや疑問にすぐ対応



2台のコンバインで収穫



播種、ほ場内明きょ、弾丸暗きょ施工
同じエリアで組み作業を実施

大豆部門の改善

収量安定のため、苗立ちの向上を検討し播種機を改良



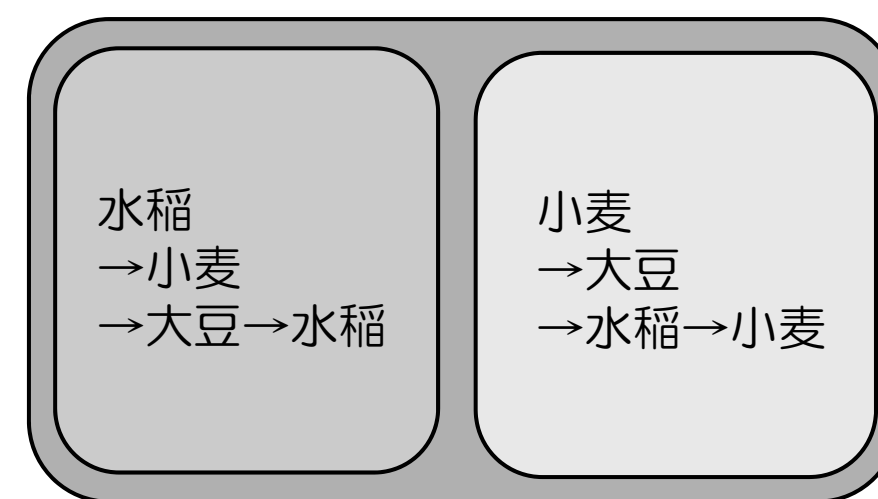
1台で3作（大豆、キャベツ、タマネギ）で使用



大豆収穫

ブロックローテーションとは

地域内で平等かつ計画的に転作をする方法

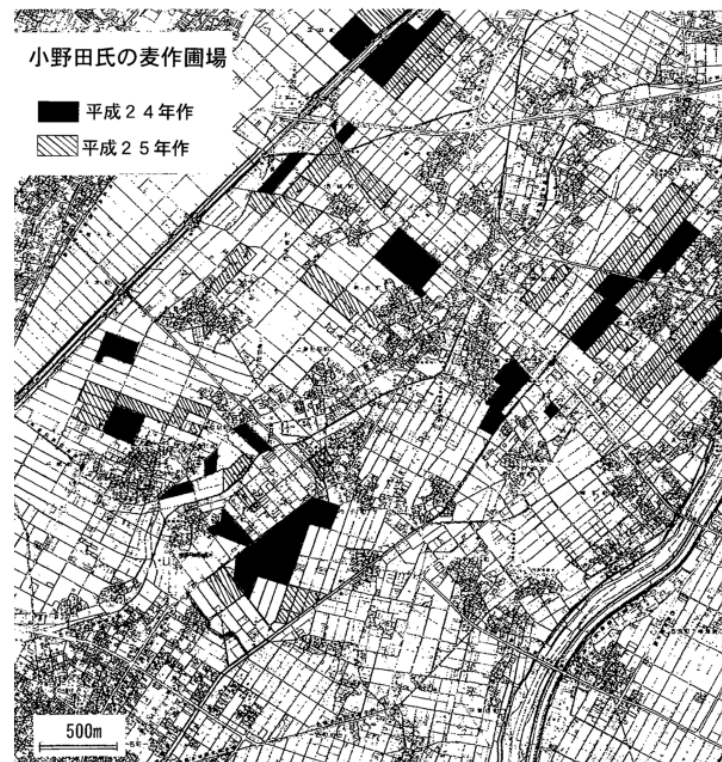


西尾市では地域の水田を半分に分け、2年間で3作（水稻→小麦→大豆）を行う

小麦作付けほ場

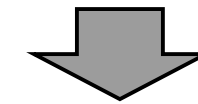
小麦の作付けほ場は
毎年変わる

ほ場は、近隣の担い手
農家と話し合い決定



データ分析による改善

- 施肥・防除、労働時間を記録
- JAの単収・等級などの成績データ
- 生産現場で気づいたことは、その場でスマートフォンに記録をとる



- 収量と品質の向上、作業効率アップを検討
- スマートフォンの記録は、1年後表示されるようにして、問題点はかならず改善する

仕事と生活の分離

営農の事務は農機具庫横の事務所で行う

家族経営協定の締結（平成26年3月）

決算（青色申告）は妻の担当

常に収支と農産物の生育状況を情報交換

農家の若い女性を対象にした勉強会・情報交換会
に参加

（自主的なもの、普及課・JA企画のもの）

水稻部門の改善

作付品種は2品種（コシヒカリ、あいちのかおりSBL）
鉄コーティング湛直の導入で、省力化を進めている

導入4年目で
あいちのかおりSBL（中生品種）
600kg/10a 達成！

育苗が100%委託のため
コスト削減もできる



鉄コーティング湛直
コシヒカリの成熟期

土壌改良材散布の省力化

土壌改良材をクレーンに200kg×2袋
ブロードキャスターに200kg
一度に600kg積んで散布作業をする



露地野菜部門

新規就農希望者に露地野菜栽培を提案

平成24年から開始

加工用キャベツ、タマネギを栽培

平成27年 キャベツ 5ha

タマネギ 2ha

新規就農希望者が加工用野菜部会に加入

大型機械作業と農地提供の支援



新規就農希望者が責任を持って実施する

明きょ施工

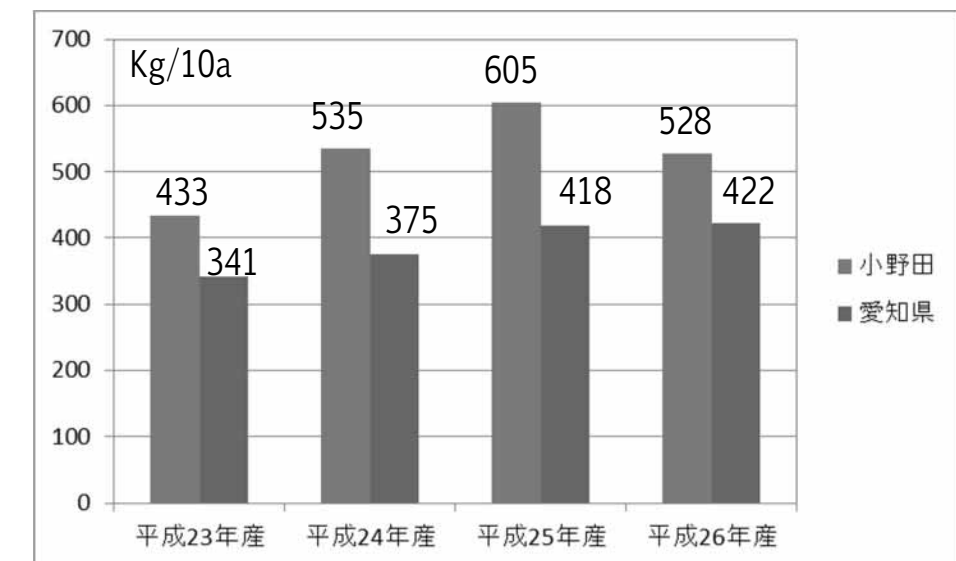
2種類の機械を使い分ける

奥 回転式溝堀り機

手前 リバーシブル溝切り機

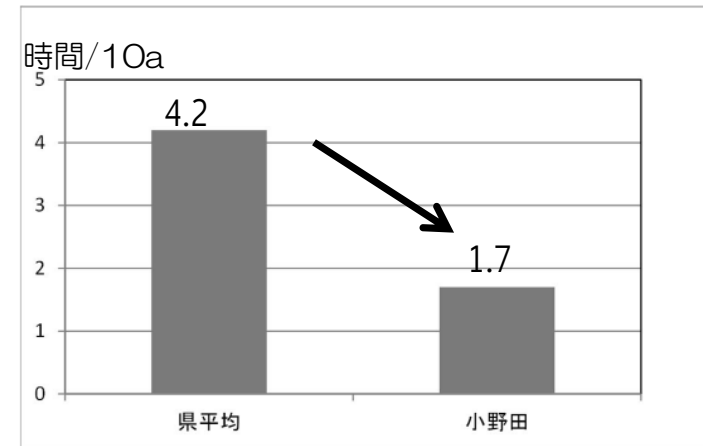


小麦の単収について



- 常に愛知県平均単収以上を確保
- 平成25年産は小麦で水稻並の単収
- 過去3年の1等比率93.9% (JA荷受けデータ)

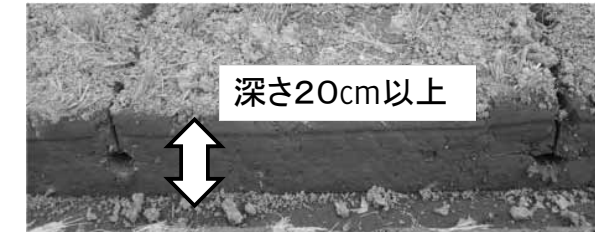
小麦作業の時間短縮



- 2チーム体制（従業員、臨時雇用）で作業を実施
- 作業を分業化・単純化して誰でもできるように工夫
- どちらかのチームに自分が入り作業精度を維持

排水対策の実施

2連の弾丸暗きょを使用
施工間隔は7m
湿田はこれより本数を増やす



私の作付けエリアは、排水対策が不十分だと小麦の収量が大きく低下する！

ほ場内の明きょは
播種時に7.2mに1本施工する

3. 小麦の省力化と高収量・高品質の両立

1haを超える大区画ほ場もあるが・・・
大きい水田で小麦の高収量・高品質の両立は
難しい

排水が悪いほ場がある
台風・大雨で冠水する
ほ場の高低差で生育不良ヶ所ができる

ほ場、土壤に合わせた排水対策が不可欠

小麦播種の特徴

播種前作業

(3作業をトラクター3台の組み作業で実施)

- 1 土壤改良材の散布
52haを2日で散布
- 2 ほ場外周の明きょの施工
- 3 コルタ付き弾丸暗きょの使用

播種作業

(2作業をトラクター2台の組み作業で実施)

- 1 播種
耕起・施肥・播種同時作業
アップカットロータリー使用
- 2 ほ場内明きょの施工



コルタ合計10枚

コルタでほ場表面に切り目を入れる
ことで、アップカットロータリーの作業
をしやすくしている



耕種概要

小麦品種 きぬあかり、イワイノダイチ

播種時期 11月中旬～12月中旬

播種量 平均8kg/10a

土壌改良材 炭酸苦土石灰 100kg/10a

基肥 BB867 40kg/10a(N18%)

追肥 ① BBNKI-Ⅱ 20kg/10a(N16%、1/下～)

追肥 ② BBNKI-Ⅱ 20kg/10a(Ⅱ、2/下～)

※生育状況に応じ4月上旬に硫安施用

合計窒素成分量 14kg/10a

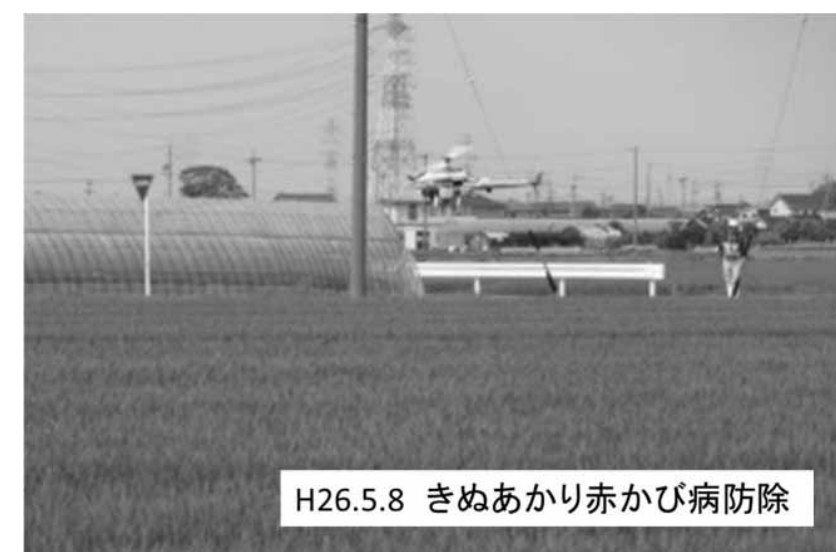
防除 赤かび病他



赤かび病防除は必ず実施！

無人ヘリ利用

天候に合わせて1～2回/年実施



H26.5.8 きぬあかり赤かび病防除



ご清聴ありがとうございました

収穫は速やかに！

- 適期を逃さないために乾燥調製は、自己所有のミニライスとJAカントリーエレベータを両方利用
- 平成26年産は、52haを9日（雨天を含む）で収穫



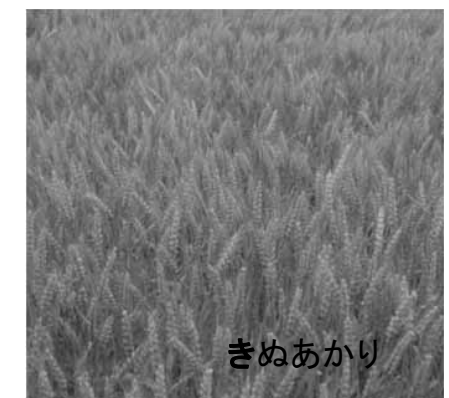
ミニライス



JA西三河 共同乾燥調製施設

小麦新品種「きぬあかり」の導入

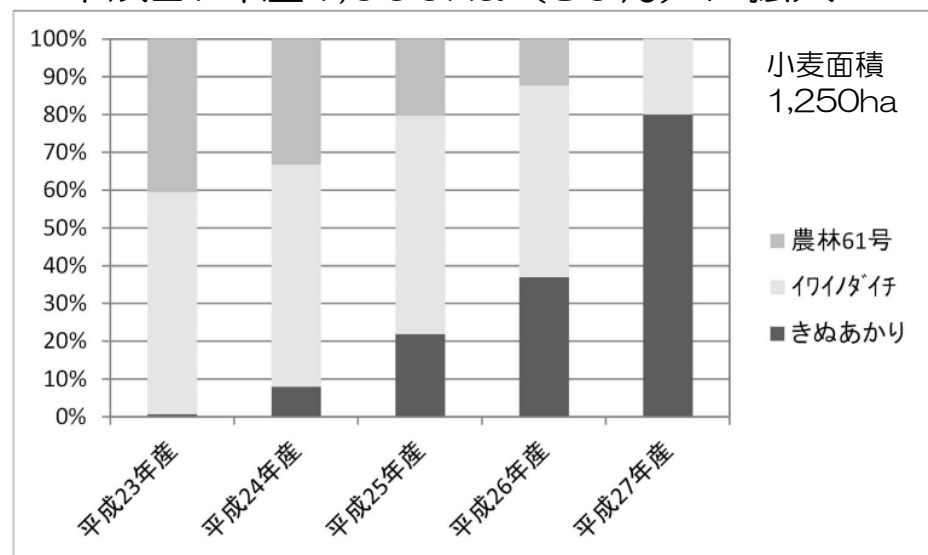
- JA西三河農作業受託部会の役員として、愛知県育成新品種「きぬあかり」の試験栽培を2作実施
- 高品質安定多収に向け、栽培方法を検討



西尾市

「きぬあかり」作付割合の推移

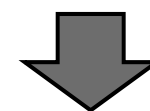
平成23年産8ha（1%以下）から
平成27年産1,000ha（80%）に拡大



J A 西三河管内の品種別作付割合の推移

地域の農地保全

畑の耕作依頼が急激に増加
※今までは個人管理されていた畑



地域の要望に応え畑を受託
露地野菜（加工用キャベツ、タマネギ）の
作付を拡大する
新規就農希望者の受け皿

4. 地域活動

生産物のアピール活動と
農業体験指導の実施



小学校での米粉を使った
料理の指導(毎年)



平成26年2月 愛知県知事訪問



田植え体験の指導(毎年)

5. 今後の挑戦について

- ・新規就農希望者の受け皿（水田作、露地野菜）
- ・経営の法人化
- ・小麦品種「きぬあかり」のタンパク質含量等の
高位安定化と新しい用途の開発
- ・小麦新品種（パン用小麦）の栽培
- ・大豆平均単収 240kg/10a に挑戦

最も大切なことは、地域に対する責任

委託農家の期待に応える丁寧な農地管理

『 個人の部 』

最優秀賞

個人名	高井 正雄		
所在地	観音寺市		
平成27年播き作付面積	小 麦: - ha		
	はだか麦: 8.32 ha		
平成27年播き麦の生産実績	作付拡大面積	平均収量(10aあたり)	1等比率
	4.97 ha	はだか麦 239 kg	100%

優秀賞

個人名	三原 稜雄		
所在地	丸亀市		
平成27年播き作付面積	小 麦:	8.33 ha	
	はだか麦:	9.19 ha	
平成27年播き麦の生産実績	作付拡大面積	平均収量(10aあたり)	1等比率
	2.31 ha	小麦 273 kg はだか麦 220 kg	100%

優秀賞

個人名	井上 博司		
所在地	綾川町		
平成27年播き作付面積	小 麦:	13.86 ha	
	はだか麦:	- ha	
平成27年播き麦の生産実績	作付拡大面積	平均収量(10aあたり)	1等比率
	1.76 ha	小麦 221 kg	100%

特別賞

個人名	谷本 寛昇		
所在地	高松市		
平成27年播き作付面積	小 麦:	12.93 ha	
	はだか麦:	2.80 ha	
平成27年播き麦の生産実績	作付拡大面積	平均収量(10aあたり)	1等比率
	1.95 ha	小麦 304 kg はだか麦 305 kg	35%

特別賞

個人名	薄木 数行		
所在地	まんのう町		
平成27年播き作付面積	小 麦:	- ha	
	はだか麦:	1.55 ha	
平成27年播き麦の生産実績	作付拡大面積	平均収量(10aあたり)	1等比率
	1.55 ha	はだか麦 329 kg	100%

○メモ欄

[illegible]

大 会 宣 言

私たちは、麦づくりを郷土香川の誇り
とし、面積の拡大、単収や品質の向上に
よる生産拡大を進め、経営の発展を図る
とともに、麦づくりを通じて地域の農業
振興にも貢献していきます。

平成28年8月5日

平成28年度香川県麦づくり推進研修大会

平成27年播き香川県麦作拡大コンクール受賞者一覧

個人の部

最優秀賞	高井	正雄	様
優秀賞	三原	稜雄	様
優秀賞	井上	博司	様
特別賞	谷本	寛昇	様
特別賞	薄木	数行	様

生産集団の部

最優秀賞	農事組合法人	原営農組合	様
優秀賞	農事組合法人	のどか	様
優秀賞	農事組合法人	さぬき府中	様

審査基準

(1) 1次審査

作付面積及び面積拡大を重点項目とするとともに、前年の単収実績を考慮して審査を行い、部門ごとに上位者を選定する。

(2) 本審査

部門ごとの1次審査上位者について現地確認を行い、下記審査項目による獲得点数上位者から最優秀賞、優秀賞を決定する。

なお、詳細な評価方法、配点方法、入賞者の決定等は、審査委員会で行うこととする。

審査項目

項目	内容
作付面積	調書による
面積拡大	調書による
出荷量	10aあたり単収
品質	等級（1等比率）
栽培管理	（細目） 排水管理・生育の均一性・ 雑草防除・病虫害防除・総合
その他	農地の集積比率 麦種別作付比率など

『生産集団の部』

最優秀賞

組織名	農事組合法人 原営農組合		
所在地	三豊市		
平成27年播き作付面積	小麦	10.33 ha	
	はだか麦	- ha	
平成27年播き麦の生産実績	作付拡大面積		平均収量(10aあたり)
	10.33 ha		1等比率
	小麦	346 kg	95.3%

優秀賞

組織名	農事組合法人 のどか		
所在地	丸亀市		
平成27年播き作付面積	小麦	- ha	
	はだか麦	4.82 ha	
平成27年播き麦の生産実績	作付拡大面積		平均収量(10aあたり)
	4.82 ha		1等比率
	はだか麦	377 kg	100%

優秀賞

組織名	農事組合法人 さぬき府中		
所在地	坂出市		
平成27年播き作付面積	小麦	0.44 ha	
	はだか麦	14.53 ha	
平成27年播き麦の生産実績	作付拡大面積		平均収量(10aあたり)
	2.65 ha		1等比率
	小麦	481 kg	100%
	はだか麦	285 kg	

平成２７年播き香川県麦作拡大コンクール実施要領

第１ 目的

麦類は本県における土地利用型作物の基幹作物であり、実需者から生産を強く求められていることから、需要に応じた速やかな作付拡大が必要である。

そこで、平成２７年播き麦について、香川県麦作拡大コンクールを開催し、麦類の作付面積の拡大や単収・品質向上により、本県を麦類の産地として復興するとともに、本県土地利用型農業の発展に寄与した担い手等を表彰し、その成績を広く紹介することによって、本県麦作の更なる発展を図るものとする。

第２ 主催等

主催：香川県農業協同組合、香川県、香川県農業協同組合中央会

後援：香川県農業再生協議会

第３ 参加資格

- （１）香川県内で小麦「さぬきの夢２００９」又ははだか麦「イチバンボシ」の生産を行う者であること。
- （２）経営所得安定対策制度に加入している経営体であること。
- （３）麦の作付面積（農業共済引受面積）が、２７年産よりも拡大していることもしくは部門毎に定めた下記面積以上の作付があること。
 - ①個人の部４ha
 - ②生産集団の部１０ha
- （４）地域の平均以上の単収生産を確保していること。

第４ 参加者の区分

参加者は次の２部に区分し、審査することとする。

- （１）個人の部
- （２）生産集団の部

なお、１戸１法人は個人とする。

第５ 参加者の推薦及び申し込み

香川県農業協同組合の各地区営農センターは、地域の優れた生産者について所轄地域農業改良普及センターと協議のうえ、推薦書により申し込む。

第６ 審査

- （１）入賞者の決定は、審査委員会に諮り、公正かつ適正に行うこととする。
- （２）審査委員会は香川県農業協同組合、香川県、香川県農業協同組合中央会をもって構成する。
- （３）審査は別に定めた審査基準に基づいて実施する。

第７ 表彰

表彰は、審査委員会の決定に従い、次のとおりとする。

- （１）個人の部 最優秀賞（１点） 優秀賞（３点以内） 特別賞（２点以内）
 - （２）生産集団の部 最優秀賞（１点） 優秀賞（３点以内） 特別賞（２点以内）
- 上記（１）個人の部、（２）生産集団の部、香川県農業協同組合代表理事理事長名で授与する。

あわせて、各部門の最上位者に香川県農政水産部長賞、香川県農業協同組合中央会長賞をそれぞれ授与する。

- （４）特別賞 審査委員会の決定に基づき、表彰することができることとする。
- ※なお、各賞は表彰状の交付と併せ、副賞を授与することができるものとする。

第８ 日程

- （１）推薦期限 平成２８年２月末
- （２）１次審査 平成２８年４月上旬
- （３）現地調査 平成２８年４月下旬（１次審査の上位者について調査を行う。）
- （４）本審査 平成２８年７月下旬
- （５）表彰 平成２８年度麦づくり推進研修会（平成２８年８月上旬頃）で行う。

第９ 事務局

事務局は香川県農業協同組合営農部農産販売課に置く。

第１０ その他

その他必要なことは、審査委員会において定めることとする。